

2025 年度 Web 経営説明会 主な質疑応答記録

日時：2025 年 6 月 13 日(金) 13:00 ～ 14:00

出席者：代表取締役 社長執行役員 横田 浩

取締役 常務執行役員 経営企画本部長 井上 智弘

< 電子先端材料の販売動向について >

Q: 2025 年度の多結晶シリコン販売数量は対 2024 年度比で 20%ほどの増加と聞いていたが、見方は変わっていないか。また、高純度 IPA は伸びていく予想だが、要因は何か。放熱材(窒化アルミニウム)の状況も教えてほしい。

A: 多結晶シリコンの販売数量についての味方は変わっておらず、現時点で鋭意交渉、一定の水準で出荷が続いている。高純度 IPA は 2 ナノ向けが 2025 年夏以降けん引していく。STAC(韓国)は少し遅れ気味で、当初は 2026 年度から大きく寄与と考えていたが、半年から 1 年程度ずれ込む可能性がある。放熱材(窒化アルミニウム)は半導体製造装置用途の需要が堅調で、2025 年度は想定よりプラスで進捗。米国関税影響は不透明だが、現時点では順調。

< 歯科器材のトラブル改善状況・関税影響・需要動向について >

Q: 歯科器材のトラブルの改善状況について教えてほしい。米国関税影響はあるか。また、ヨーロッパは新規の営業活動が停滞しているということだが、既存顧客は伸びているのか。

A: アメリカからの注文は強く、緊急度の高くない案件はお断りするケースもある。米国関税影響を想定して先取り需要の流れがある。関税アップ分の価格転嫁を基本方針とし、お客様と話を進めている。類似品はゼロではないので、勘案しながらの対応になる。ヨーロッパはステイ。本来はもう少しアグレッシブにイギリスやフランスのマーケットに売り向けていく予定だったが遅れている。

< 株主還元について >

Q: P18 キャッシュアロケーションの図表についてお伺いしたい。株主還元方針は現状 DOE3%、配当性向 30%を掲げているが、まだ余力があるように感じられる。今後の株主還元についての考え方を教えてほしい。

A: 中計 2025 においては事業ポートフォリオ転換を進めるということでキャッシュの重要性が増していたこともあり、株主還元についてはコンサバティブな数字となっていた。現在の水準はまだまだと認識しており、もう一段高い目線で行っていく必要性を感じている。

Q: 次期中計は回収のフェーズと考えてよいか。

A: 投資と回収。回収で得たキャッシュについては還元も含めて検討していく。

以上